



もつれにもつれたKP61を制したのは菊地秀樹だった。



最も多くトップを走った石崎竜之だがゴール前で逆転され3位。

## KP61スターレット

参加75台/出走39台/完走35台

1位から5位まで、なんと0・5・2・8秒差という超接近戦。2位の近藤康晴は4位の小野明秀とからんで、スピンしながらチェッカーをくぐるというヒートしたレースだった。近藤、小野、石崎竜之が激しくトップを争う。前戦でスリップストリームを最大限に利用して初優勝を飾った菊地秀樹は、今回もトップ集団のスリップをうまく使った。チェッカーを目前にして、石崎と近藤のクルマの影から飛び出した菊地は、わずか0秒110だけ抜け出し2連勝を決めた。

「ブレーキが不調でロククしやすく、みんなに迷惑かけたみたい。水温も気になっていたので、なかなか前に出れなかった」と、大混戦をくり返してホッとした表情を見せた。

KP61スターレット	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦	第8戦	有効点
1 小野 明秀	15	12	20	4	10				67
2 菊地 秀樹	8		12		20				60
3 近藤 康晴	10		20	6	8				59
4 石井 彰		20	3		20				46
4 西山 直宏	6	6	4	15	15				46
4 田中 義孝	12		15	10	6	3			46
7 猪狩 恵一		15			12	2			29
8 石崎 竜之			1	15				12	28
9 小西 好男			10			12		2	24
9 石井 康博					10	6		8	24

KP61の表彰台。左から優勝した菊地秀樹、3位の石崎竜之。

## <フェスティバ>

参加8台/出走8台/完走8台



フェスティバの表彰台。左から2位神田真人、優勝金森敏、3位たけなかとる。

▲前戦ですでにチャンピオンを決めている金森敏一がポール・トゥー・フィニッシュで優勝。

フェスティバ	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦	第8戦	小計
1 金森 敏一	15			20	15		15	20	85
2 たけなかとる				15	20				47
3 橋本 肇				10			20	10	40
4 宮本 真人	20				12				32
5 神田 真人						12	15		27
6 有泉 渉				8	6		8	4	26
7 移川 太一		20							20
8 山下 玲司				10			6	3	19
9 佐藤 元彦		15							15
10 牧方 政明		12							12
10 高平 高輝				12					12



▲全6戦中2勝、2位4回の成績ながらチャンピオンを逃した竹内順三。



▲ファミリアの表彰台。左から2位竹内順三、優勝杉本英剛、3位大野ユタカ。

ファミリア	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦	第8戦	小計
1 杉本 英剛	15	20		20	20		15	20	110
2 竹内 順三	20	15		15	15		20	15	100
3 青野 哲久		10		12	10				32
4 水沼 隆	12	12		1	4				29
4 青山 浩	8	2		6			3	10	29
6 大野ユタカ					6			8	12
6 内田 光一	10	8		8					26
8 児玉 達也	1	6			12				25
9 鈴木 隆	3	3		10					20
10 富田 博	2	1		3	1				15



競り合っていた加藤智にオレンジボールが出され、それに気づいた篠原昌史の乗勝。

## レビン・トレノ

参加45台/出走36台/完走30台

3勝目をあげポイントが90点とした山崎泰文は、7位に終わった藤崎哲也を抜いて、大逆転でチャンピオンに輝いた。しかも今回のレースはめまぐるしく順位が上下する大接戦だっただけに、山崎は笑いが止まらない。「最近、全然勝てなかったからうれしい。きょうのレースは頭使いましたよ。2周目の1コーナー前の2台がからんでいたんで、早目にブレーキかけたら、4台に抜かれてやばいなと思った。でも、コーナーではみんなインにいてるので、アウトから抜いていけました。3周目のヘアピンでは3位まで挽回できた。いけると思ったけど、2位の竹内浩典さんはストレートが速くて、最後までハラハラしっぱなし」と山崎は興奮気味だった。

レビン・トレノ	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦	第8戦	有効点
1 山崎 泰文	8	20	20		15	15		20	90
2 藤崎 哲也	20			20	20	20	8	4	88
3 大谷 浩之		20	12	3		8			49
3 北村 淳		12	1	12	12				49
5 木下みつひろ	12		15				20		47
5 柳沢 充			8	15	20	2		2	47
7 山口 英治	15	15			15				45
8 安藤 智	10		20		1	10			41
9 野沢 昭夫					10	10	8		28
9 友田 茂	4			10	6	8			28

エクサ・パルサーの表彰台。左から2位の下村俊夫、優勝した篠原昌史、3位の加藤登。



▲大接戦のレビン・トレノの表彰台。左から2位竹内浩典、優勝山崎泰文、3位北村淳。

## エクサ・パルサー

参加45台/出走36台/完走29台

6周に短縮されて行われたエクサ・パルサー。篠原昌史と加藤登が激しく争いながらレースは進んだ。ところが、加藤にはライニングの判定が下され、オレンジボールが出された。篠原はフラッグに気付き一歩引くが、当の加藤は気が付かずチェッカーまで走ってしまい、失格となってしまった。フラッグを見ることは、サーキットを走るドライバーの最低限のルール。加藤だけでなく他のドライバーも十分注意してもらいたい。

優勝した篠原も、スッキリしない表情で、加藤くんがピットインしないから複雑な気持ちだった。良きライバルだし、改めて戦いたかった。きょうはクルマがバッチリと決まっていたので本当に残念だった」と語った。

エクサ・パルサー	第1戦	第2戦	第3戦	第4戦	第5戦	第6戦	第7戦	第8戦	小計
1 角田 将英	20		20	20	20		10		90
2 加藤 智	12			15	15		15		57
3 篠原 昌史	10		15		10				55
4 生川 邦夫	15				12				27
5 浅井 健次			12	8				6	26
6 松井 一司		3	10				12		25
7 伊藤 裕徳					2		20	2	24
8 岩崎 康				12	8				20
9 川上 品彦					4		6	8	18
10 韓尾 弘之		10	6						16

## <ファミリア>

参加30台/出走30台/完走27台

全6戦中4勝、2位2回という見事な成績で王座についた杉本英剛。



## ファミリア・フェスティバ

（ファミリア）杉本英剛と竹内順三。この2人がここのファミリアを二分してきた。これまでの5戦では、2人以外で優勝はおろか2位になったドライバーはいない。今回の最終戦は、まさに天下分け目の決戦だ。

決勝グリッドは、前から6台がフェスティバで、杉本7番手、竹内8番手だ。スタートからトップを快走した杉本は、竹内を完全に封じ込め、4勝目とともにチャンピオンを獲得した。喜色満面の杉本は、「1周目は竹内さんのプレッシャーがあったけど、2周目の100Rで竹内さんが接触して遅れたので楽になった。もう少し競って勝ちたかったですね」と余裕の表情で語った。

（フェスティバ）前戦ですでにチャンピオンを決めている金森敏一がポールポジションを獲得。決勝レースでもスタートよく飛び出し、神田真人につけ入るスキを与えず、今季2勝目を飾った。